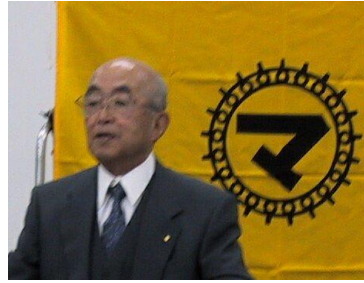


今年4月の入社式における森木会長



森木泰光会長を偲んで・・・

故森木泰光会長の足跡を簡単にまとめてみました。
故人の人となり思い出して頂ければ幸いです。

略歴

大正10年4月13日	広島因島にて生まれる。
昭和16年12月	山梨高等工業高校工学科卒業
昭和17年1月	愛知時計電機株式会社航空機部入社
昭和17年4月	愛知航空機株式会社に移動。機体部翼工場技術係長(☆1)
昭和20年4月	応召。横須賀海兵団入隊。(☆2)
昭和20年10月	米国第5空軍昭和基地重機整備工場勤務(☆3)
昭和20年	麻雀と出会う(☆4)
昭和21年9月	有限会社マルマ車輛整備工場設立、専務取締役役に就任(☆5)
昭和23年9月	代表取締役社長に就任(☆6)
昭和26年	米 CAT 社の指定サービス工場となる。全国の工事現場の重機整備を行う。(☆7)
昭和29年	結婚(2男1女を得る)
昭和31年5月	初渡米(☆8)
昭和33年	終生の趣味、ゴルフと出会う。(☆9)
昭和39年	東海道新幹線試乗(☆10)
昭和30年代	社業を順調に伸ばす(☆11)
昭和45年	ソ連・フィリピン等海外輸出案件の受注本格化。海外各地を転々とする。(☆12)
昭和56年7月	建設大臣表彰受賞
昭和59年6月	紺綬褒章受章
昭和59年10月	通産大臣賞受賞
平成4年5月	勲五等双光旭日賞受賞
平成14年1月	代表取締役会長に就任(☆13)
平成14年6月12日	逝去。享年81歳(☆14)

エピソード

- ☆1 飛行機が大好きな少年時の夢がかない、愛知航空機で艦爆「彗星」の部分設計に従事しました。潜水艦でラバウルまで行ったそうです。社長室で彗星の照準器をうれしそうにいじっていました。
- ☆2 名古屋の空襲にて、ロケット弾で負傷したことを自慢していました。
- ☆3 終戦後に日本の航空機産業は禁止されましたが、飛行機への夢絶ちがたく米軍の航空基地に志望。しかし経験者は航空機に関係させないとの米軍方針で、基地の建設機械整備に従事しました。ここで修得した技術がマルマの礎となりました。NHKの番組「プロジェクト X」の「YS-11」の回を感慨深く話していたのが印象的でした。

- ☆4 このころ麻雀を覚え、危ないこともしたようです。本当に好きで、マルマ設立後も、水曜土曜の終礼前に、たとえ外出しても帰社して、社員からメンバーを集め、夜遅くまで熱戦を繰り広げました。それ以外の日は取引先にもお邪魔してやっておりましたので、お相手された方はご記憶あるのかと思います。結婚した週も、徹夜麻雀をしたとの証言もあります。
- ☆5 『社名については「我々は戦争で多くの戦友に戦死され、勤めていた職場も失い、戦争の悲惨さを身に持って体験している。ここにいる者は全員戦争の犠牲者である。戦争のない世の中を築くのと、戦災で焼け野原と化した日本を再建するのが生き残った我々の義務であると思う。我々はマルマ計画の犠牲者救済の為にここに集って職場を建設中であり、戦争の悲惨さを忘れないためにも、マルマの名前を残そうではないか」との森木の意見により、「有限会社マルマ車輛整備工場」の名前が 全員一致で決定された。』(弊社50周年誌より抜粋)
なお、マルマ計画とは、戦時中に軍需省で満州に航空機産業を移設育成しようとした計画の略称です。
- ☆6 『初代社長が昭和23年に会社の解散を申し出た後に、11人での再出発の時、森木が推されて社長に就任し、新しい会社の目標として、真面目に働く者が食べられる会社を目指したいという願いを込め「創業の精神一働く者のユートピア建設」を第一の社訓にした。これは当時の闇商人の栄えた時代に対する反発と、せめてマルマだけは闇商売に毒されず、技術改善から生じる付加価値の高さによって皆の収入が確保されて生きていける楽しい会社でありたいとの願いが込められているのである。』(同上)
- ☆7 『日本中の主なダム工事現場には、工事期間中必ず何名か(黒部ダムは32名)のマルマのサービス員が駐在し、昼夜を分かたず重機の高稼働率確保のために骨身を削って努力していた。』(同上)
- ☆8 米国での研修で知り合った仏人2人と共に、スクラップ屋から100ドルのシボレーを共同購入して休日に整備し、ピオリアからニューヨークまで数ヶ月の大陸横断の自動車旅行をしました。ボロ車を直しながら、道々、整備工場があると見学させてもらったり、ダム現場を見学したりしたそうです。
- ☆9 大変なゴルフ好きは自他共に認めるところ。今回の症状が発症したのも4月13日のゴルフ場でした。多様な工具を駆使し、自分流のクラブ改造をおこなっていました。大はずれのない堅実なプレーだったようです。「プレーには人格が出る」が持論でした。某役員曰く「意見の対立があっても、最後にゴルフの話をすれば、和やかに別れることができた」とのこと。
- ☆10 開通前の招待者試乗の日、この大事業には戦後中止となっていた自分の夢の航空機技術が生かされたことと、自分が建設工事方面から協力できたことから、喜びで涙を流したとのこと。
- ☆11 名古屋・相模原工場を建設。また特殊工具や設備機器の製造にも乗り出しました。多くは周囲の大反対を押し切った決断であったようで、当時の苦労をよく話していました。昭和62年にマルマ機工を設立。平成2年に建設機械化協会の副会長就任。
- ☆12 渡米中も映画館へ金曜日の夜から翌日朝まで、サンドイッチを夜食にして徹夜で3回ずつ繰り返してみる訓練を反復しておこなった。帰国後も中学時代の参考書で英文法、英作文を復習したと聞きましたが、この努力で英会話力は社内屈指の実力を誇っていました。この語学力と技術力をもって、世界各国を渡り歩いていました。
また、今日のマルマの原点があるのは、基地の米軍人から整備技術を教わったおかげであり、今度はマルマが発展途上国の発展に寄与するべきという使命感から、JICA(国際開発事業団)や AOTS(海外技術者研修協会)からの技術研修の者受入を推進しました。今までに延べ1000人以上は受け入れています。
- ☆13 「これからは、相模原事業所を別な面から援助するよ。あそこには起伏の少ない相模原ゴルフクラブもあるから、その近辺に移り住むのもいいなあ。」
- ☆14 4月13日に狭心症の症状がでて、5月17日に心臓バイパス手術を行い、術後の回復は順調のようにみえました。しかし6月2日バイパス血管のうち1本が感染症にて出血し、そのショックで心臓の機能が低下し、亡くなりました。15時12分のことです。当日の昼まで、リハビリに励んでいました。急なことで、回りはもちろん、本人も亡くなるとは思っていなかったのではないのでしょうか。